21　次の文章を読んで、後の設問に答えよ。〈東京大〉　二〇一五年度出題

昨日机に向かっていた自分と現在机に向かっている自分、両者の関係はどうなっているのだろう。身体的にも意味的にも、昨日の自分と現在の自分とが微妙に違っていることは確かである。しかし、その違いを認識できるのは、その違いにもかかわらず成立している不変の自分なるものがあるからではないのか。こういった発想は根強く、誘惑的でさえある。だが、アこのような見方は出発点のところで誤っているのである。このプロセスを時間的に分断し、対比することで、われわれは過去の自分と現在の自分とを別々のものとして立て、それから両者の同一性を考えるという道に迷いこんでしまう。過去の自分と現在の自分という二つの自分があるのではない。あるのは、今働いている自分ただ一つである。生成しているところにしか自分はない。

過去の自分は、身体として意味として現在の自分のなかに統合されており、その限りで過去の自分は現在の自分と重なることになる。身体として統合されているとは、たとえば、運動能力に明らかである。最初はなかなかできないことでも、訓練を通じてわれわれはそれができるようになる。そして、いったん可能となると、今度はその能力を当たり前のものとしてわれわれは使用する。また、意味として統合されているとは、われわれが過去の経験を土台として現在の意味づけをなしていることに見られるとおりである。現在の自分が身体的、意味的統合を通じて、結果として過去の自分を回収する。換言すれば、回収されて初めて、過去の自分は「現在の自分の過去」という資格をａカクトクできるのである。

統合が意識されている場合もあれば、意識されていない場合もある。したがって、現在の自分へと回収されている過去の自分が、それとして常に認識されているとは限らない。むしろ、忘れられていることの方が多いと思われる。二十年前の今日のことが記憶にないからといって、それ以前の自分とそれ以後の自分とが断絶しているということにはならない。第一、二十年前から今日現在までのことを、とぎれることなく記憶していること自体不可能である。重要なのは、何を忘れ、何を覚えているかである。つまり、自分の出会ったさまざまな経験を、どのようなものとして引き受け、意味づけているかである。そして、そのような過去への姿勢を、現在の世界への姿勢として自らの行為を通じて表現するということが、働きかけるということであり、他者からの応答によってその姿勢が新たに組み直されることが、自分の生成である。そしてこの生成の運動において、いわゆる自分の自分らしさというものも現れるのである。

イこの運動を意識的に完全に制御できると考えてはならない。つまり、自分の自分らしさは、自らがそうと判断すべき事柄ではないし、そうあろうと意図して実現できるものでもない。具体的に言えば、自分のことを人格者であるとか、ｂコウケツな人柄であるとか考えるなら、それはむしろ、自分がそのような在り方からどれほど遠いかを示しているのである。また、人格者となろうとする意識的努力は、それがどれほど真摯なものであれ、いや、真摯なものであればあるほど、どうしてもそこには不自然さが感じられてしまう。ここには、自分の自分らしさは他人によって認められるという逆説が成立する。このことは、とりわけ意識もせずに、まさに自然にされる行為に、その人のその人らしさがう方なく認められるという、日常の経験を考えてみても分かるだろう。

自分とはこういうものであろうと考えている姿と、現実の自分とが一致していることはむしろである。それは、現実の自分とはあくまで働きであり、その働きは働きの受け手から判断されうるものだからである。しかし、そうであるならば、自分の自分らしさは他人によって決定されてしまいはしないか。ここが面倒なところである。自分らしさは他人によって認められるのではあるが、決定されるわけではない。自分らしさは生成の運動なのだから、固定的に捉えることはできない。それでも、自分らしさが認められるというのは、自分について他人が抱いていた漠然としたイメージを、一つの具体的行為として自分が現実化するからである。しかし、ウその認められた自分らしさは、すでに生成する自分ではなく、生成する自分の残した足跡でしかない。

いわゆる他人に認められる自分の自分らしさは、生成する自分という運動を貫く特徴ではありえない。かといって、自分で自分の自分らしさを捉えることもできない。結局、生成する自分の方向性などというものはないのだろうか。

生成の方向性は生成のなかで自覚される以外にない。ただこの場合、何か自分についての漠然としたイメージが具体化することで、生成の方向性が自覚されるというのではない。というのは、ここで自覚されるのはｃイゼンとして生成の足跡でしかないからである。生成の方向性は、棒のような方向性ではなく、生成の可能性として自覚されるのである。自分なり、他人なりが抱く自分についてのイメージ、それからどれだけ自由になりうるか。どれだけこれまでの自分を否定し、逸脱できるか。この「……でない」という虚への志向性が現在生成する自分の可能性であり、方向性である。そして、これはまさに自分が生成する瞬間に、生成した自分を背景に同時に自覚されるのである。

このような可能性のどれかが現実のなかで実現されていくが、それもわれわれの死によって終止符を打たれる。こうして、自分の生成は終わり、後には自分の足跡だけが残される。

だが、本当にそうか。なるほど、自分はもはや生成することはないし、その足跡はわれわれの生誕と死によってはっきりと限られている。しかし、働きはまだ生き生きと活動している。ある人間の死によって、その足跡のもっている運動性も失われるわけではない。つまり、エ残された足跡をる人間には、その足の運びの運動性が感得されるのであり、その意味で足跡は働きをもっているのである。われわれがソクラテスの問答に直面するとき、ソクラテスの力強い働きをまざまざと感じるのではないか。

自分としてのソクラテスは死んでいるが、働きとしてのソクラテスは生きている。生成する自分は死んでいるが、その足跡は生きている。正確に言おう。自分の足跡は他人によって生を与えられる。われわれの働きは徹頭徹尾他人との関係において成立し、他人によって引き出される。そして、自分が生成することを止めてからも、その働きが可能であるとするならば、その可能性はこの現在生成している自分に含まれているはずである。そのように、自分の可能性はなかば自分に秘められている。オこの秘められた、可能性の自分に向かうのが、虚への志向性としての自分の方向性でもある。

（池上哲司『傍らにあること─―老いと介護の倫理学』）

問１　「このような見方は出発点のところで誤っているのである」（傍線部ア）とあるが、なぜそういえるのか、説明せよ。

問２　「この運動を意識的に完全に制御できると考えてはならない」（傍線部イ）とあるが、なぜそういえるのか、説明せよ。

問３　「その認められた自分らしさは、すでに生成する自分ではなく、生成する自分の残した足跡でしかない」（傍線部ウ）とはどういうことか、説明せよ。

問４　「残された足跡を辿る人間には、その足の運びの運動性が感得される」（傍線部エ）とはどういうことか、説明せよ。

◎問５　「この秘められた、可能性の自分に向かうのが、虚への志向性としての自分の方向性でもある」（傍線部オ）とあるが、どういうことか。本文全体の論旨を踏まえた上で、一〇〇字以上一二〇字以内で説明せよ（句読点も一字と数える）。

問６　傍線部ａ、ｂ、ｃのカタカナに相当する漢字を楷書で書け。

ａ　カクトク　　ｂ　コウケツ　　ｃ　イゼン

【解答と採点基準】

問１　Ａ現在と過去の自分を別の自分ととらえ、Ｂ不変の自分を想定する考え方は、Ｃ過去は現在に統合され、Ｄ今生成している自分しかないという事実に反するから。

Ａ・Ｃ・Ｄにふれていなければ全体０。

Ａ＝３〔「過去の自分と現在の自分は別のもの」という表現が必要。〕

Ｂ＝２／Ｃ＝３

Ｄ＝２〔「存在するのは今生成している自分一つ」という意であれば可。〕

問２　Ａ自分を生成する働きはＢ他者からの応答によって新たに組み直され、　Ｃ自分らしさとして現れるが、Ｄそれは自然になされる行為にこそ認められるから。

Ａ・Ｂがなければ全体０。

Ａ＝２

Ｂ＝３〔「他者との関わりの中で再構成される」という意であれば可。〕

Ｃ＝２

Ｄ＝３〔「自然に」は「意識せずに」でも可。〕

問３　Ａ現実の自分は、具体的な行為として自分を組み直す働きであるのに、　　Ｂ他者に認められた自分らしさは、Ｃそれを固定的に捉えたものでしかないということ。

Ｂ・Ｃがなければ全体０。

Ａ＝４〔「働き」は「運動」でも可。〕

Ｂ＝３

Ｃ＝３〔「固定的に捉えたもの」は同意であれば可。〕

問４　Ａ自分の可能性を追い求めた Ｂ過去の人間の生き様を辿ることは、Ｃ現在を生きる自分の自己生成運動に力強く働きかけ、Ｄ新たな可能性を生み出すということ。

Ｂ・Ｃがなければ全体０。

Ａ＝２〔「自己を生成し続けてきた」という内容でも可。〕

Ｂ＝２

Ｃ＝３〔「に力強く働きかけ」は「の中で生き続け」という表現でも可。〕

Ｄ＝３

問５　Ａ過去への姿勢を現在の世界への姿勢として、自らの行為を通じて表現する働きに現れる現実の自分は、Ｂ他者との関係において成立するが、Ｃ自分や他人が抱くこれまでの自分から自由になり、Ｄどれだけ自分を否定し、逸脱できるかが自分の方向性であるということ。（１１８字）

Ｂ・Ｃがなければ全体０。

Ａ＝３

Ｂ＝３〔「他者からの応答によって組み直される」という表現も可。〕

Ｃ＝２〔「自由になる」という表現が必要。〕

Ｄ＝２〔「否定」「逸脱」という語が必要。〕

問６　ａ＝獲得　　ｂ＝高潔　　ｃ＝依然